

Sam Breakley / Noseride
Photo by Moonwalker

スモールウェイブでも、ノーズで加速していくハングファイブ。正しいボードのセットアップとライン取りによって、波と一体になる感覚を味わえるテクニックだ



Herbie Fletcher / Backside Trim
Photo by Jim Russi

冬のノースショアで、ドライブの効いたバックサイドトリムを決めるハービー・フレッチャー。絶妙なボードコントロールで、波のパワーゾーンをキープする

TECHNIQUE For SUMMER part 1 トッププロが魅せる
スタイリッシュなライディング

一見すると地味に見えるテクニックでも、そこに至るまでのアプローチ、そしてスタイルなど多くのファクターが重要となるロングボーディング。自分らしく、そして優雅に、あなたならどうライディングするだろう？

Classic & Modern Maneuvers



河村正美プロ
'02年度JPSAグランドチャンピオンという
肩書もさることながら、スタイリッシュなサー
フィンで多くのサーファーを魅了し続け、
ミュージシャンとしても湘南発のカルチャー
を発信するカリスマ的プロサーファー。
ホームブレイクは湘南踏石。
●スポンサー/Aquarius Surfboards,
O'Neill, Fruition, Carver, Patrick,
Hawaiians, The Suns, Murasaki Sports,
Coleman



TECHNIQUE FOR SUMMER part 2 波乗りに直に効く! オン・ザ・ボードのテクニック相談

歴史を積み重ねてきたロングボーディングには、定石が存在します。曲がる、加速する、歩くなど、極めてベーシックな動きにこそ、確固たる定石が宿ります。上達への近道として間違いないこの定石について、Q&A形式にて河村、北村の両トッププロに聞きました。

Photos: KENYU, ST Text: ST Illustration: Astuo Higuchi



北村吉代プロ
JPSA公認プロライダーとしてツアーを転戦
するかわら、東京練馬にてサーフショッ
プ"LANI"をプロデュース。マニユアーから
ノーズライディングまで、洗練されたサー
フセンスが信条。ホームブレイクは鎌倉、
千葉北エリア。
●スポンサー/Brewer Surfboards,
Rash, FCS, Sprawls, Smith, Indian, Lani

Question about Getting-Out/Pull-Out

波数の多い日はアウトに出れなくてよくメゲるのですが……

A

沖に出る際には、できるだけ速やかに通過すべき地帯があります。波がもつとも頻りに崩れる「ブレイクゾーン」がそれ。浮力があるためドルフィンスルーの難しいロングボードでは、この地帯にハマると、アウトに出れない場合が出てきます。少しでも波をくわらずにアウトに出るには、海に入る前に、波が割れずらい沖への「通り道」を見つけること。一見どこも同じ波の割れ方に見えるビーチにも、ブレイクとブレイクの間には、沖へと向かう流れがあります。カレントと呼ばれるこの流れに沿って出れば、効率的です。そして質問のように波数の多い日は、波が頻りに割れるブレイクポイントの手前で一旦待機して、セットの合間を見てください。ロングボードのバドリングの速さを生かして、一気にアウトに出るのがポイントです。



波数の多い日は、もっとも頻りに波が崩れる「ブレイクゾーン」の手前で一旦待機し、セットの合間を見ながらアウトを目指そう。ダラダラと同じリズムで沖を目指しては波に捕まってしまう

プルアウトってするべきなのですか?

A

一本一本の波において、必ず心がけるべきです。プルアウトは、アイススケートや体操といった採点競技のフィニッシュを飾る。礼にあたり、そのスポーツに対する「姿勢」を表します。最後のキメでボードを岸へと流してリーシュコードをたぐり寄せては、せつかくのライディングも合無し。当然、長くて重量のあるロングボードを流す行為は、危険も伴います。では、実際にプルアウトするにはどうしたらいいの? テクニックの前に、「ライディングを自ら中止する」という意思を明確に持ち、その瞬間になったらためらわずに実行することで。沖側へとボードを返すのが難しいピギナーのうちは、レールを両手でつかんでボードに股がかるだけで、立派なプルアウトになります。優雅さの間われるロングボードだけに、クールなプルアウトをしっかりとキメましょう。



1 サイズは小さめだが、波数が多い日に有効なシッティングスルー。波待ちの状態です。まずはデッキに座ろう



2 スープが目の前に来たら、両手でレールをつかんでテールを沈め、飛び上がる準備の体勢をとる



3 テールが浮き上がろうとする反発を利用して、一気にスープの上に乗せよう



4 そのままデッキ上に乗せ上がって、次のセットをくわ前にバドリングを開始しよう



2 後脚でテールを沈めてノーズを引き上げると同時に、上体を沖側へとひねりこんでノーズを回していく



1 ライディングを終了すべきセクションまできたら、ためらわずにテール寄りにステップバックしてプルアウトの体勢へ



3 体を反転させるのと同時に体勢を小さくして、ボードが流されないようにレールをしっかりと両手でつかもう



4 レールをつかんだタイミングでボードに乗せ込めば、すかさず沖へと向かえる。簡単なフィニッシュを磨こう!



プルアウトとウィブアウトでは雲泥の差、コンテストでは点数も大きく違ってくる。自分で演技を終わらせる"意思"を持つ!